

令和6年度 園全体評価

園評価の結果について、以下の通り報告します。

1. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育・保育内容全般について	・コロナも落ち着き以前のように、登降園時には保護者が園内に入ってくるので、態度・言葉遣い・あいさつ等より注意するように、心掛ける。 ・感染予防対策をしっかりと行う。それを職員間で共有しながら、保育に携わるが、罹患者が増えている状況の場合は、保護者にも協力を得ながら保育を行った。 ・子ども一人ひとりの発達状況に応じて保育・教育するように心掛けた。 ・気になる子への対応は、会議などで話し合いを設け、全職員が共通理解をし保育に携わるようにする。 ・行事等は、コロナ前に近い感じに戻して行った。 園外活動も増やし行事も保護者参加型に近いものとした。 ・感染対策を徹底し、収穫した野菜などでのクッキングに子ども達と一緒に楽しむことができ良かった ・昨年同様、栄養士による食育指導を行い、子ども達と一緒に考えたりしながら、「食べること」「食」に関わることを楽しみながら伝えていくことができた。 ・0歳児の月齢に幅があり、一人ひとりの子どもの発達を踏まえ、無理なくその子どもの発達状況に合わせて援助した。危険のないように目を配り、信頼関係、スキンシップを大切にした。 ・気になる子の対応には、全職員で話し合いの場を設け、事例をあげながら、対応を確認していった。 ・保護者の意見を聞きながら、インターネットでの写真販売をする。 ・室内での遊びの環境作り・コーナー遊びの環境設定をマンネリ化しないように、その都度話し合いを設け展開させていくように努力した。 ・疑問に思ったことは、その都度話し合いを持ち、意見を出し合いながら解決していく。そして、保育・教育への共有・共感を職員全員が持つようにしながら、保育を進める。

教育・保育環境 について	・感染予防・金額の高騰により、親子バス遠足は行わず、現地集合・現地解散で親子遠足を行う。それで、未満児組の参加も増えていった。 ・おがーるシステムの導入で非常事態だけではなく、変更時の場合などにも使用し、保護者もシステムにも慣れた様子を感じられすぐに既読する保護者が増えた。 ・感染予防対策は引き続き継続しつつ、保護者を迎え入れることで保護者とのコミュニケーションをとり信頼関係を築いていく方向性で全職員が取り組む。 ・感染状況をより分かりやすく保護者に伝えるようする。また、遊具消毒、掃除の徹底に全職員が取り組む。
教職員の専門性 に関する研修への 意欲について	・コロナも落ち着き、参加型の研修会に参加する。 ・以上児・未満児ともに、その都度、課題を見つけ日常の保育へとつなげていく。 ・室内遊びを広げ、子ども達を楽しませる工夫をする。 ・個々に一年間の目標を持ち、先を見通した保育にするために努める。
地域・保護者との 連携について	・昨年同様、災害時に備え訓練を行う。職員間で連携・協力を得ながら取り組んだ。各自役割意識をきちんと持ち、真剣に行う。その大事さをきちんと子ども達に話し、子ども達も真剣に行うように促す。 ・コロナが落ち着き、地域との交流や小学校との連携等にも積極的に参加した。また、反対に小学校からの受け入れや保育実習等も受け入れいろいろな面で交流を深めた。
子育て支援の 充実	・一時預かり・休日保育とも積極的に受け入れた。休日保育では、他園に通っているお子さんも受け入れた。一時預かり保育では、短時間でも積極的に受け入れるようにした。

2. 今後に向けて

教育・保育の在り方	・年齢に応じたの密を避けることの対応が難しく、安心・安全な環境作りは今後も必要である。 ・全職員が共通理解のもと、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育をめざす。 ・言葉遣いに気を付け、強い口調や制止や禁止の言葉・呼び捨てなどに注意する。 ・今まで、中止していた行事を再開するにあたり、見直しする所参加者を限定したりと安全に安心して行事を楽しむように配慮する。 ・施設の衛生、剥がれたり取れたりしている箇所等、手直しできる所は、園側で行い安全管理を徹底し安心・安全な環境作りに励む。 ・それぞれの発達に留意して、離乳完了と歩行や発語への意欲を育む。担任同士、共通理解をする。 ・気になる子、発達に少々おくれが見られる子は特に成長に合わせた対応・接し方を心掛ける。 ・コロナが緩和された今、以前のようにもどりつつも、行事等の見直しも踏まえながら、その都度話し合いながら、前向きに考え取り組んでいく。 ・特別な支援の必要子どもに対し、適切な指導や援助関わりが持てるようにする職員間で情報を共有し合う。 ・引き続き、感染予防対策として遊具消毒・園内清掃の徹底。
職員の専門性向上に向けて	・職員間のコミュニケーションをしっかりと、報告・連絡・相談を怠らないようにする。 ・園内研修では、子ども達の育ちが確かなものになるように職員全員が共通理解をして、次につなげていけるようにする。 ・個々をたいせつにしながら、常に情報を共有しながら実践していく。 ・向上心を持ち続け、いろいろな行事が子ども達・保護者・職員が楽しんでできるように話し合いを十分に行っていく。
保護者・地域との連携について	・丁寧な対応を心掛け、正確な情報を伝える。 ・緊急時の対応の理解、連絡の確認、おがスマメールの活用。

I
